

環境省自然環境計画課  
生物多様性国家戦略見直し担当 様

はじめにメールいたします。鹿児島大学の枚田です。

屋久島で調査活動をしている関係から、現地担当の東岡さんより説明資料等をいただき、意見があれば出してほしいと言われました。

そこで、とりわけ現在私がやっていること(登山者の把握方法の構築)と関連させて、意見を述べさせていただきます。

同戦略骨子(事務局案)の説明資料の3ページ、「自然との共生」の考え方の中で「自然の管理と利用を順応的に行うなど、エコシステムアプローチの考え方」が重要とっておられること、同じく、「人間生活・生産活動とのかかわりの中で保全していくための、保全を基礎とした調整原理が必要」と述べられていた点は、重要と思います。

そして、これを具体化するために、3部1節施策の基本方向(同4ページ)の5つの方向として自然環境データの充実が指摘されています。また、同6ページの7の自然環境データの整備についてふれられています。いままでの環境行政でもそうでありましたが、自然環境そのものをどのように把握するかにか点がおかれてしまい、それに影響を与えている人間関与のデータ蓄積が不十分と思います。

先に示したように、管理と利用の両立、調整を考えるには、自然環境がどのような状態かを把握することは必要ですが、もう一つ人間の関与の程度を把握しておくことが必要です。そうしなければ、「自然の管理と利用を順応的に行う」とか、調整をすることは無理です。

自然環境データの充実に加えて、人的関与データの蓄積と影響の検討を加えていただきたいと思います。

全体的な指摘でなく、申し訳ありませんが、現時点で気づいた点について意見を述べさせていただきます。

平成14年1月28日

枚田邦宏(鹿児島大学農学部)